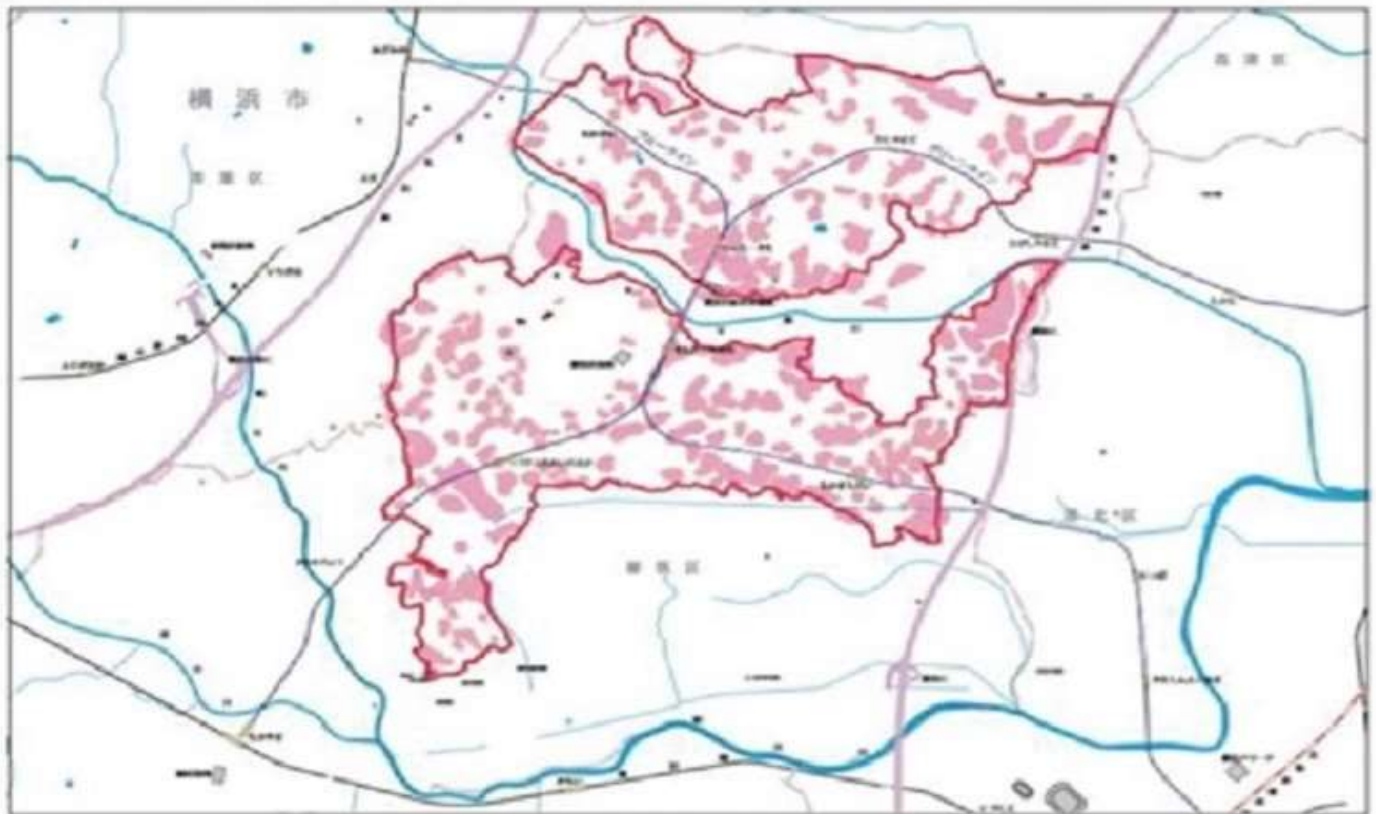


港北ニュータウンの遺跡

2021年3月11日編集 k.kumagai

港北ニュータウン 主要遺跡分布(赤枠の中 約300遺跡)

神奈川県内の縄文時代中期後葉の主要遺跡分布 ((財)かながわ考古学財団 2005 をもとに作成)



港北ニュータウン調査遺跡分布図

港北ニュータウンの遺跡調査

港北ニュータウンの遺跡群調査は、港北ニュータウン地域の開発開始にともない、1970年から1989年の約20年にわたって実施されました。調査にあたっては、個々の遺跡を発掘・調査するだけでなく、それら遺跡が相互にどのような関連性があるか、「遺跡群研究」というテーマをかかげて行われました。

港北ニュータウン予定地には、300ぐらいの遺跡があり、200ぐらいが発掘調査されました。

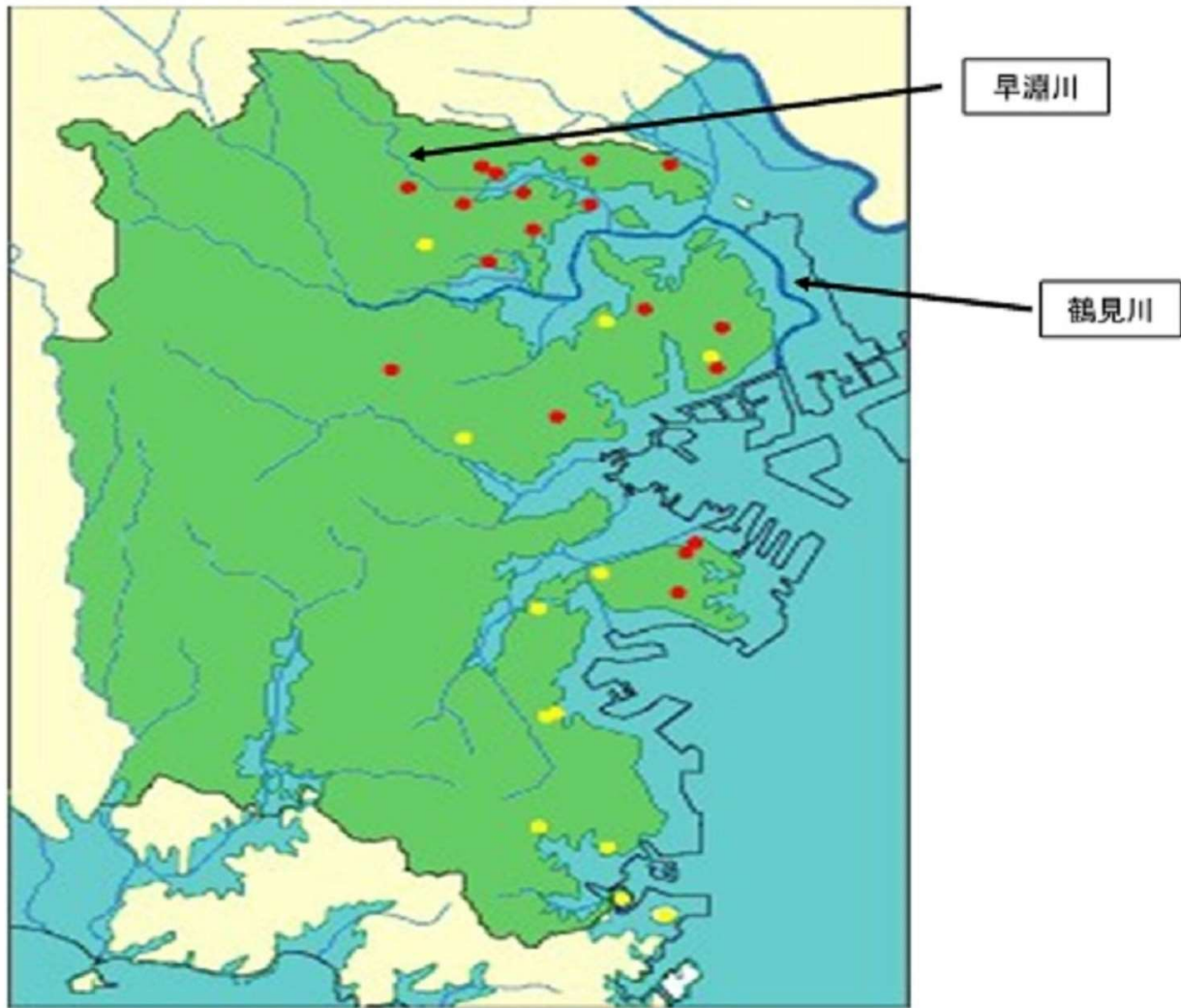
港北ニュータウンの遺跡の特徴

約3万年まえの原始・先土器時代から近世・江戸時代までの遺跡があります。中でも、原始・古代史を明らかにするうえで重要な次の遺跡が発掘されました。約1万5千年前の縄文時代草創期の土器が120個体、発掘された花見山遺跡(川和高校のあたり)

南関東最大の縄文集落である三の丸遺跡、339戸の竪穴住居あとが見つかった。(川和富士公園あたり)

国指定遺跡である弥生時代中期の環濠集落とその墓の大塚・歳勝土遺跡などがあります。(周囲600メートルの環濠集落、現在1/3が保存され竪穴住居が復元されている)

縄文海進（センター北 辺りまで海だった）



- は縄文時代前期の代表的な貝塚
- はその他の時期の代表的な貝塚

私たちが住んでいる地球は、寒い時期（氷河期）と暖かい時期（間氷期）をくり返して現在にいたっています。最も新しい氷河期は今から約 10,000 年前に終わり、現在は間氷期にあたるといわれています。

間氷期のあいだであっても、緩やかな気候の変動があります。縄文時代前期（約 6,000 年前）頃は地球の気候が最も暖かかった時期で、現在のより平均で約 2 度ほど高い気温でした。そのため、南極や氷河期に形成されていた氷河が溶け出して、海面の高さも現在よりも 4～6m ほど高くなっていました。横浜市域では、海に面した鶴見区、神奈川区、西区、中区、磯子区、金沢区はもとより、内陸部の港北区、都筑区、緑区や戸塚区までも海岸線が入り込んでいました（図参照）。

この海進については、遺跡の発掘調査からもうかがい知ることができます。貝塚とは、当時の人たちが食べ終わった貝や魚やいらなくなった道具などを、集落近くの斜面や廃絶した住居跡の中（埋まりかけの窪み）に捨てた跡のことをいいます。このため、この貝塚を調査することで、当時の人たちが何を食べていたのかなどが分かります。また、貝は種類によって、海に棲むもの、川に棲むもの、その両方の条件が整った場所に棲むもの、また、砂や泥を好んで棲むもの、岩場に棲むものがあるため、貝が採れた周辺の環境なども分かります。もちろん、貝に混じって出土する土器から貝塚のつくられた時期も分かりますし、当時の人たちの食べ物の好みも分かります。

縄文時代中期以降の港北ニュータウンの代表的な遺跡

都筑区縄文時代中期(紀元前5000年前)の代表的な遺跡(赤表記)



弥生時代中期 大塚・歳勝土遺跡 (復元された竪穴住居と発掘当時の航空写真)



(大塚遺跡)

(歳勝土遺跡)

大塚・歳勝土遺跡の保存

発掘時は、周囲600メートル面積100,000㎡でしたが、現在1/3の面積33,000㎡が保存されています。

図1. 参照

復元された環濠の木柵は、構造物が発見されなかったので、秋田の地蔵田B遺跡から発掘された木柵を参考に復元されました。

竪穴住居あとは、縄文時代から弥生時代・古墳時代のものがあり、計85戸から重なりを含めると115戸ありましたが、現在27戸が1メートルの盛り土をして保存されています。

また、竪穴住居は7戸復元され、掘っ立て柱・高床倉庫は、1棟復元されています。

復元に際して、竪穴住居や高床倉庫の構造物は発見されていないので、竪穴住居は奈良県で発掘された家屋文鏡、高床倉庫の柱のネズミ返しは、銅鐸を参考に復元されました。

歳勝土遺跡の方形周溝墓は、25墓が発掘され5墓が復元されています。

図2. 参照

大塚遺跡 稲作水田の跡

早淵川の本流あたりと大塚遺跡の北側あたりを調査しましたが、発見できませんでしたが、大塚遺跡から炭化米が発見されており、稲作が行われた静岡県の登呂遺跡のように住居の近くにあったと推定しています。

大塚遺跡の入口にある周辺地形模型に、推定した水田あとが記されています。

大塚遺跡 村同士の戦が始まった跡

大塚遺跡には、39戸の焼失した竪穴住居が見つかっています。縄文時代までなかった環濠も築かれています。また、槍や矢などの先頭につける石鏃も、縄文時代は小さく殺傷力の小さいものでありましたが、弥生時代は、石鏃も大きくなり、より殺傷力の高いものになっていました。

弥生時代は、稲作が本格化して、米を蓄えることが出来て、持てる者持てない者が生まれた。また、稲作は、集団で行う必要があり、そこから集団を統率する者が現れ、それが村同士の戦の始まりになったのではと思われます。

大塚・歳勝土遺跡の発掘当時の図



(図1)



(図2)

参考資料・引用資料：

横浜市歴史博物館 利用案内（パンフレット）

横浜市歴史博物館 大塚・歳勝土遺跡公園入口 説明パネル

横浜市歴史博物館 常設展示室 解説ちらし